

「下水試験方法－2012年版－(上巻)」 正誤表(1刷)

頁	編	章	節	訂正箇所	誤	正
199	1	5	14	4行目	表5-30	表5-28
206	1	6	2	6行目	甲種危険物取り扱い者	甲種危険物取扱者
212	1	6	2	図6-4	(図中【2次マニフェスト】の⑧B2, ⑨C2のアンダーバーが抜け)	<p>【2次マニフェスト】</p>
214	1	6	4	図6-6 (左上部)	純粋製造装置	純水製造装置
221	1	図表出典		下から10行目	図5-14 (中略) JIS K 0114:2001 図3を一部修正	図5-14 (中略) JIS K 0114:2000 図3を一部修正
221	1	図表出典		下から7行目	図5-43 (中略) JIS K 0102:2006 図61.3を一部修正	図5-43 (中略) JIS K 0102:2008 図61.3を一部修正
221	1	図表出典		下から6行目	図5-44 (中略) JIS K 0102:2006 図61.5を一部修正	図5-44 (中略) JIS K 0102:2008 図61.5を一部修正
221	1	図表出典		下から1行目	表5-1 (中略) 図35.1, 表48.1を一部修正	表5-1 (中略) 表35.1, 表48.1を一部修正
221	1	図表出典		追加	—	図5-32 ESIインタフェース部の一例 出典: JIS K 0136:2004 図3
225	2	1	1	図1-1	(図番号及びタイトル抜け)	<p>ポリエチレン製容器</p> <p>図1-1 採水器の例</p>
234	2	1	4	3行目	$X = \frac{1}{K} \sum_{400}^{700} f_x(\lambda) \cdot \underline{\gamma} (\lambda)$	$X = \frac{1}{K} \sum_{400}^{700} f_x(\lambda) \cdot \underline{\tau} (\lambda)$
289	2	1	24	下から12行目	⑤ 有機性炭素標準液(C 1mg/L)	⑤ 無機性炭素標準液(C 1mg/L)
295	2	1	25	下から6行目	注7 第37節3.の備考4により有効塩素の濃度を求める。	注7 第37節3.の備考6により有効塩素の濃度を求める。

「下水試験方法－2012年版－(上巻)」 正誤表(1刷)

頁	編	章	節	訂正箇所	誤	正												
299	2	1	25	表1-19	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象陽イオン</th> <th>定量範囲 (mg/L) 注</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⋮</td> <td>⋮</td> </tr> <tr> <td>リチウム (Li)</td> <td>0.1～<u>5</u></td> </tr> </tbody> </table>	対象陽イオン	定量範囲 (mg/L) 注	⋮	⋮	リチウム (Li)	0.1～ <u>5</u>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象陽イオン</th> <th>定量範囲 (mg/L) 注</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⋮</td> <td>⋮</td> </tr> <tr> <td>リチウム (Li)</td> <td>0.1～<u>50</u></td> </tr> </tbody> </table>	対象陽イオン	定量範囲 (mg/L) 注	⋮	⋮	リチウム (Li)	0.1～ <u>50</u>
対象陽イオン	定量範囲 (mg/L) 注																	
⋮	⋮																	
リチウム (Li)	0.1～ <u>5</u>																	
対象陽イオン	定量範囲 (mg/L) 注																	
⋮	⋮																	
リチウム (Li)	0.1～ <u>50</u>																	
303	2	1	26	下から4行目	亜硝酸性窒素標準液(NO ₂ -N 1 μg/L)	亜硝酸性窒素標準液(NO ₂ -N 1 μg/mL)												
304	2	1	26	20行目	亜硝酸性窒素標準液(NO ₂ -N 1 μg/L)	亜硝酸性窒素標準液(NO ₂ -N 1 μg/mL)												
305	2	1	26	2行目	備考3による。	備考5による。												
305	2	1	26	11行目	0.75g	7.500g												
305	2	1	26	16行目	0.815g	8.155g												
311	2	1	27	下から17, 14行目	a :④で求めた C :⑤で求めた	a :③で求めた C :④で求めた												
312	2	1	27	3, 4行目	A :滴定に要した B :空試験に要した	a :滴定に要した b :空試験に要した												
314	2	1	27	6行目	a :⑥で算出した	a :⑧で算出した												
317	2	1	28	下から8行目	第25節1. 又は2. の試験操作	第25節1. 及び2. の試験操作												
317	2	1	28	下から2行目	B :空試験の滴定に要した	b :空試験の滴定に要した												
318	2	1	28	22行目	A :③の留出液中の	a :③の留出液中の												
318	2	1	29	下から6行目	表1-24のとおり	表1-25のとおり												
319	2	1	29	表1-25	<table border="1"> <thead> <tr> <th>試験方法</th> <th>定量範囲</th> <th>変動係数 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2. 総和法</td> <td>8～160 μg (Nとして)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	試験方法	定量範囲	変動係数 (%)	2. 総和法	8～160 μg (Nとして)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>試験方法</th> <th>定量範囲</th> <th>変動係数 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2. 総和法</td> <td>8～160 μg (Nとして)</td> <td><u>3～10</u></td> </tr> </tbody> </table>	試験方法	定量範囲	変動係数 (%)	2. 総和法	8～160 μg (Nとして)	<u>3～10</u>
試験方法	定量範囲	変動係数 (%)																
2. 総和法	8～160 μg (Nとして)																	
試験方法	定量範囲	変動係数 (%)																
2. 総和法	8～160 μg (Nとして)	<u>3～10</u>																
320	2	1	29	下から9行目	50mL中の硝酸性窒素(NO ₃ -N)	25mL中の窒素(N)												
322	2	1	29	11行目	② 第28節1. 及び2. 又は3. の試験操作	② 第28節1. 及び3. の試験操作												
322	2	1	29	13行目	③ 次の式によって、…算出する。(文追加)	③ 次の式によって、…算出する。なお、ここでは①の操作で用いた試料量及び②の操作で用いた試料量をそれぞれ50mLとして計算している。												

「下水試験方法－2012年版－(上巻)」 正誤表(1刷)

頁	編	章	節	訂正箇所	誤	正
322	2	1	29	下から9行目	$a \times \frac{1,000}{50}$ 又は $c \times \frac{100}{d}$	$a \times \frac{100}{c}$ 又は $b \times \frac{100}{d}$
347	2	1	33	22行目	図1-25のように	図1-23のように
348	2	1	33	15行目	図1-25のように	図1-23のように
352	2	1	33	2, 3行目	注18 第31節2.の検量線の作成の注8による。 注19 第31節2.の検量線の作成の注9による。	注18 第31節2.の検量線の作成の注9による。 注19 第31節2.の検量線の作成の注10による。
353	2	1	33	図1-24	A:ガス洗浄瓶(…)水酸化ナトリウム溶液(20g/L)	A:ガス洗浄瓶(…)水酸化ナトリウム溶液(200g/L)
359	2	1	34	4, 5行目	注17 第31節2.の検量線の作成の注8による。 注18 第31節2.の検量線の作成の注9による。	注17 第31節2.の検量線の作成の注9による。 注18 第31節2.の検量線の作成の注10による。
363	2	1	36	1行目	備考2によるろ過操作を行う。	備考3によるろ過操作を行う。
370	2	1	37	下から4行目	備考4による。	備考6による。
381	2	1	40	14行目	⑩ 以下, 1.の試験操作⑧～⑬を行い,	⑩ 以下, 1.の試験操作⑦～⑬を行い,
388	2	1	41	3行目	陰イオン界面活性剤標準液(10 μg/mL)を	陰イオン界面活性剤標準液(10 μg/mL) 10mLを
390	2	1	41	6行目	ナトリウムは50～70の共存でも	ナトリウムは50～70mgの共存でも
397	2	1	42	2行目	比色管 容量100mL	全量フラスコ 容量100mL
397	2	1	42	6行目	① 前処理を行った試料 ^{注5} の適量 ^{注6} を比色管100mLにとり,	① 前処理を行った試料 ^{注5} の適量 ^{注6} を全量フラスコ100mLにとり,
397	2	1	42	18行目	① フェノール標準液(…)5～50mLを比色管100mLに	① フェノール標準液(…)5～50mLを全量フラスコ100mLに
428	2	2	3	16行目	1.の器具及び装置による。	2.の器具及び装置による。
442	2	2	5	表2-12	(四塩化炭素及び1,1-ジクロロエチレンの網掛け・太字)	(別紙1のとおり)
450	2	2	5	下から14行目	10分間程度保持する。	30分間程度保持する。
453	2	2	5	8行目	1, 1, 2-トリクロロエタン20 μg/mL	1, 1, 2-トリクロロエタン40 μg/mL
459	2	2	5	表2-15タイトル	…揮発性有機化合物標準液調整時の	…揮発性有機化合物混合標準液Ⅰ調整時の
463	2	2	6	10行目	51項目	69項目
470	2	2	6	2行目	分液漏斗 …水及びアセトンで洗浄したもの。	分液漏斗 …水で洗浄した後, アセトンで洗浄乾燥したもの。
470	2	2	6	3～4行目	なす形フラスコ …水及びアセトンで洗浄したもの。	なす形フラスコ …水で洗浄した後, アセトンで洗浄乾燥したもの。

「下水試験方法－2012年版－(上巻)」 正誤表(1刷)

頁	編	章	節	訂正箇所	誤	正												
470	2	2	6	5行目	三角フラスコ ……水及びアセトンで洗淨したもの。	三角フラスコ ……水で洗淨した後、アセトンで洗淨乾燥したもの。												
470	2	2	6	8行目	濃縮器 ……水及びアセトンで洗淨したもの。	濃縮器 ……水で洗淨した後、アセトンで洗淨乾燥したもの。												
470	2	2	6	9行目	共栓付き試験管 ……水及びアセトンで洗淨したもの。	共栓付き試験管 ……水で洗淨した後、アセトンで洗淨乾燥したもの。												
472	2	2	6	7行目	⑧ 空試験として水1Lを分液漏斗にとり、溶媒抽出法①～⑥までの操作を行う。	⑧ 空試験として試料と同量の水を分液漏斗にとり、溶媒抽出法①～⑦までの操作を行う。												
475	2	2	6	下から15行目	溶媒抽出法では前処理の④で得た	溶媒抽出法では前処理の⑦で得た												
477	2	2	6	14行目	表2-27	表2-23												
477	2	2	6	18行目	表2-23	表2-24												
479	2	2	6	17行目	クリーンアップ操作③で得たヘキサン濃縮液	クリーンアップ操作⑤で得た濃縮液												
479	2	2	6	18行目	溶媒抽出法では前処理④で得た	溶媒抽出法では前処理⑦で得た												
479	2	2	6	22行目	クリーンアップ操作④で得たヘキサン濃縮液	クリーンアップ操作⑥で得た濃縮液												
479	2	2	6	23行目	溶媒抽出法では前処理⑤で得た	溶媒抽出法では前処理⑧で得た												
479	2	2	6	下から9行目	FPD又はNPD用混合標準液(0.2～1 μg/mL)	FPD又はNPD用混合標準液(0.5～1 μg/mL)												
479	2	2	6	下から8行目	ECD用混合標準液(0.5～1 μg/mL)	ECD用混合標準液(0.2～1 μg/mL)												
479	2	2	6	下から1～2行目	FPD又はNPD用混合標準液(0.2～1 μg/mL)	FPD又はNPD用混合標準液(0.5～1 μg/mL)												
479	2	2	6	下から1行目	ECD用混合標準液(0.5～1 μg/mL)	ECD用混合標準液(0.2～1 μg/mL)												
480	2	2	6	20行目	リン酸(1mg/L)	リン酸(1mol/L)												
480	2	2	6	21行目	リン酸緩衝液(0.01mg/L) リン酸(1mg/L) 10mLに	リン酸緩衝液(pH3.3) リン酸(1mol/L) 10mLに												
480	2	2	6	22行目	水酸化ナトリウム溶液(10mg/L)	水酸化ナトリウム溶液(10mol/L)												
480	2	2	6	下から6行目	オキシシン銅標準液50mL	オキシシン銅標準液25mL												
480	2	2	6	表2-25	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">混合標準液</th> </tr> <tr> <th>採取量 (mL/100mL)</th> <th>濃度 (g/mL)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	混合標準液		採取量 (mL/100mL)	濃度 (g/mL)			<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">混合標準液</th> </tr> <tr> <th>採取量 (mL/100mL)</th> <th>濃度 (μg/mL)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	混合標準液		採取量 (mL/100mL)	濃度 (μg/mL)		
混合標準液																		
採取量 (mL/100mL)	濃度 (g/mL)																	
混合標準液																		
採取量 (mL/100mL)	濃度 (μg/mL)																	
481	2	2	6	12行目	リン酸緩衝液(0.01mg/L)	リン酸緩衝液(pH3.3)												
481	2	2	6	下から4行目	注58 注10による。	注58 注19による。												

「下水試験方法－2012年版－(上巻)」 正誤表(1刷)

頁	編	章	節	訂正箇所	誤	正
483	2	2	7	6行目	1,4-ジオキサンは、排水基準及び	1,4-ジオキサンは、排水基準値0.5mg/L及び
514	2	2	8	下から1行目	ノニルフェノールエトキシレート酢酸	ノニルフェノールエトキシ酢酸
519	2	2	8	下から2行目	ノニルフェノールエトキシレートを分析対象とする。	ノニルフェノールエトキシ酢酸を分析対象とする。
521	2	2	8	表2-34	(対象物質)	(別紙2のとおり)
540	2	図表 出典		4行～22行目	表2-20 ～ 表2-30	削除
540	2	図表 出典		下から1～3行目	表2-34 表2-35 表2-36	表2-29 表2-30 表2-31
591	3	2	4	下から2行目	なお、概略値を測定する簡易試験法があり、詳細は第1編第5章第14節簡易分析に記載した。	なお、分析操作等を自動化し連続測定する流れ分析法、概略値を測定する簡易試験法があり、詳細は第1編第5章第13節流れ分析、第14節簡易分析に記載した。
600	3	2	5	下から20行目	³⁵ Clの同位体存在度	³⁵ Clの同位体存在度
600	3	2	5	下から19行目	³⁷ Clの同位体存在度	³⁷ Clの同位体存在度
600	3	2	5	下から18行目	⁷⁷ Seの同位体存在度	⁷⁷ Seの同位体存在度
600	3	2	5	下から17行目	⁷⁸ Seの同位体存在度	⁷⁸ Seの同位体存在度
600	3	2	5	下から16行目	⁸² Seの同位体存在度	⁸² Seの同位体存在度
623	3	2	12	下から5行目	マンガン標準液(Fe 1,000 μg/mL)	マンガン標準液(Mn 1,000 μg/mL)
623	3	2	12	下から4行目	マンガン標準液(Fe 100 μg/mL)	マンガン標準液(Mn 100 μg/mL)
624	3	2	12	20行目	マンガン標準液(Fe 1,000 μg/mL)	マンガン標準液(Mn 1,000 μg/mL)
624	3	2	12	21行目	マンガン標準液(Fe 10 μg/mL)	マンガン標準液(Mn 10 μg/mL)
624	3	2	12	23行目	マンガン標準液(Fe 1 μg/mL)	マンガン標準液(Mn 1 μg/mL)
677	3	図表 出典		下から4行目	図1-1(中略)出典: JIS Z 0102	図1-1(中略)出典: JIS K 0102:2008 図61.4
677	3	図表 出典		下から2行目	図2-1(中略)出典: JIS Z 0102	図2-1(中略)出典: JIS K 0102:2008 図61.1
677	3	図表 出典		下から1行目	図2-2(中略)出典: JIS Z 0102	図2-2(中略)出典: JIS K 0102:2008 図61.2
724	5	1	14	8行目	第2編第1章第25節5.の器具及び装置による。	第2編第1章第26節2.の器具及び装置による。
724	5	1	14	10行目	第2編第1章第25節5.イオンクロマトグラフ法に準ずる。	第2編第1章第26節2.イオンクロマトグラフ法に準ずる。

「下水試験方法－2012年版－(上巻)」 正誤表(1刷)

頁	編	章	節	訂正箇所	誤	正				
724	5	1	14	下から17行目	(備考追加)	備考4 イオンクロマトグラフによる有機酸(酢酸, プロピオン酸, <i>iso</i> -酪酸, <i>n</i> -酪酸, <i>iso</i> -吉草酸, <i>n</i> -吉草酸)の分析では, これらの物質が分離定量できるカラムと溶離液等の組合せを用い, 試薬の脂肪酸標準液を適切な濃度に希釈した溶液によって, 各成分が分離できることを確認する。				
739	5	1	15	下から21行目	(4) 残存モノマー	4) 残存モノマー				
741	5	1	15	下から4行目	カチオン度	カチオン性				
751	5	1	21	15行目	1. 前処理 (文追加)	1. 前処理 塩化物分析のための汚泥の前処理は, 有機物を無機化して汚泥中の塩素化物等を易水溶性の塩化物等とするために行う。前処理法には灰化法, 高温燃焼ガス化法(燃焼管式空気法)及び高温燃焼ガス化法(ボンベ式質量法)があり, 灰化法(乾式)が一般的であるが, 加熱によりガス化しやすい塩化物や塩素化物が含まれる場合は適さない。また, 高温燃焼ガス化法(燃焼管空気法)では生成した灰分からの回収を行わないため, 塩化ナトリウム等高沸点の塩化物を含む場合には適さない。				
751	5	1	21	下から11行目	硝酸銀滴定法では,	塩素濃度を硝酸銀滴定法によって求める場合は,				
769	5	3		表3-2	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">土壌の汚染に係る環境 基準¹⁾</td> <td style="text-align: center;">判定基準</td> </tr> </table>	土壌の汚染に係る環境 基準 ¹⁾	判定基準	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">土壌の汚染に係る環境 基準</td> <td style="text-align: center;">判定基準¹⁾</td> </tr> </table>	土壌の汚染に係る環境 基準	判定基準 ¹⁾
土壌の汚染に係る環境 基準 ¹⁾	判定基準									
土壌の汚染に係る環境 基準	判定基準 ¹⁾									

表2-12 試験方法別の測定対象物質とその定量範囲^{注1} (JIS K 0125 付表1をもとに作成)

項番号	1	2	3	4	5	6	7
試験方法 対象物質	HS- GC/MS 法 μg/L	P&T- GC/MS 法 ng	HS-GC (ECD) 法 μg/L	P&T-GC (ECD) 法 ng	溶媒抽出 -GC(ECD)法 ng	HS-GC (FID) 法 μg/L	P&T-GC (FID) 法 ng
トリクロロエチレン	0.2~200	0.5~250	A ^{注2} 0.5~5	A ^{注2} 0.04~0.4	0.016~0.32		2.5~1,000
テトラクロロエチレン	0.2~200	0.5~250	A 0.4~4	A 0.02~0.2	0.004~0.08		2.5~1,000
ジクロロメタン	0.2~200	0.5~250	B 5~50	C 2.5~25			2.5~1,000
四塩化炭素	0.2~200	0.5~250	A 0.05~0.5	A 0.01~0.1	0.001~0.02		2.5~1,000
1,2-ジクロロエタン	0.2~200	0.5~250	B 5~50	C 2.5~25			2.5~1,000
1,1-ジクロロエチレン	0.2~200	0.5~250	B 5~50	C 2.5~25			2.5~1,000
cis-1,2-ジクロロエチレン	0.2~200	0.5~250	C 25~250	D 10~100			2.5~1,000
1,1,1-トリクロロエタン	0.2~200	0.5~250	A 0.2~2	A 0.04~0.4	0.004~0.08		2.5~1,000
1,1,2-トリクロロエタン	0.2~200	0.5~250	B 2~20	B 0.4~4	0.016~0.32		2.5~1,000
cis-1,3-ジクロロプロペン	0.2~200	0.5~250	B 1~10	B 0.1~1			2.5~1,000
trans-1,3-ジクロロプロペン	0.2~200	0.5~250	B 1~10	B 0.2~2			2.5~1,000
ベンゼン	0.2~200	0.5~250				10~2,000	2.5~1,000
クロロホルム	0.2~200	0.5~250	A 0.5~5	B 0.1~1	0.01~0.2		2.5~1,000
trans-1,2-ジクロロエチレン	0.2~200	0.5~250	C 10~100	D 4~40			2.5~1,000
1,2-ジクロロプロパン	0.2~200	0.5~250	B 5~50	C 1~10			2.5~1,000
p-ジクロロベンゼン	0.2~200	0.5~250	B 5~50	C 2~20			2.5~1,000
トルエン	0.2~200	0.5~250				10~2,000	2.5~1,000
o-キシレン	0.2~200	0.5~250				10~2,000	2.5~1,000
m-キシレン p-キシレン	0.2~200	0.5~250				10~2,000	2.5~1,000
ブロモジクロロメタン	0.2~200	0.5~250	A 0.5~5	A 0.02~0.2	0.0024~0.048		2.5~1,000
ジブロモクロロメタン	0.2~200	0.5~250	A 0.5~5	A 0.02~0.2	0.004~0.08		2.5~1,000
ブロモホルム	0.2~200	0.5~250	A 0.5~5	B 0.1~1	0.02~0.4		2.5~1,000

誤

表2-34 対象物質及び内標準物質の測定イオン





番号	対 象 物 質	測定イオン
1	ノニルフェノール <u>モノ</u> エトキシ酢酸 [NP(1)EC]	277 → 219
2	ノニルフェノール <u>ジ</u> エトキシ酢酸 [NP(2)EC]	321 → 219
3	ノニルフェノール <u>トリ</u> エトキシ酢酸 [NP(3)EC]	365 → 219
4	ノニルフェノール <u>テトラ</u> エトキシ酢酸 [NP(4)EC]	409 → 219
5	ノニルフェノール <u>ペンタ</u> エトキシ酢酸 [NP(5)EC]	453 → 219
6	ノニルフェノール <u>ヘキサ</u> エトキシ酢酸 [NP(6)EC]	497 → 219
7	ノニルフェノール <u>ヘプタ</u> エトキシ酢酸 [NP(7)EC]	541 → 219
8	ノニルフェノール <u>オクタ</u> エトキシ酢酸 [NP(8)EC]	585 → 219
9	ノニルフェノール <u>ナノ</u> エトキシ酢酸 [NP(9)EC]	629 → 219
10	ノニルフェノール <u>デカ</u> エトキシ酢酸 [N P(10)EC]	673 → 219
11	ノニルフェノール <u>ジ</u> エトキシ酢酸- d_4 [NP(2)EC- d_4]	325 → 219
12	オクチルフェノール <u>モノ</u> エトキシ酢酸 [OP(1)EC]	263 → 205
13	オクチルフェノール <u>ジ</u> エトキシ酢酸 [OP(2)EC]	307 → 205
14	オクチルフェノール <u>トリ</u> エトキシ酢酸 [OP(3)EC]	351 → 205
15	オクチルフェノール <u>ジ</u> エトキシ酢酸- d_4 [OP(2)EC- d_4]	311 → 205

正

表2-34 対象物質及び内標準物質の測定イオン

番号	対 象 物 質	測定イオン
1	ノニルフェノ <u>キシ</u> 酢酸 [NP(1)EC]	277 → 219
2	ノニルフェノール <u>モノ</u> エトキシ酢酸 [NP(2)EC]	321 → 219
3	ノニルフェノール <u>ジ</u> エトキシ酢酸 [NP(3)EC]	365 → 219
4	ノニルフェノール <u>トリ</u> エトキシ酢酸 [NP(4)EC]	409 → 219
5	ノニルフェノール <u>テトラ</u> エトキシ酢酸 [NP(5)EC]	453 → 219
6	ノニルフェノール <u>ペンタ</u> エトキシ酢酸 [NP(6)EC]	497 → 219
7	ノニルフェノール <u>ヘキサ</u> エトキシ酢酸 [NP(7)EC]	541 → 219
8	ノニルフェノール <u>ヘプタ</u> エトキシ酢酸 [NP(8)EC]	585 → 219
9	ノニルフェノール <u>オクタ</u> エトキシ酢酸 [NP(9)EC]	629 → 219
10	ノニルフェノール <u>ナノ</u> エトキシ酢酸 [N P(10)EC]	673 → 219
11	ノニルフェノール <u>モノ</u> エトキシ酢酸- d_4 [NP(2)EC- d_4]	325 → 219
12	オクチルフェノ <u>キシ</u> 酢酸 [OP(1)EC]	263 → 205
13	オクチルフェノール <u>モノ</u> エトキシ酢酸 [OP(2)EC]	307 → 205
14	オクチルフェノール <u>ジ</u> エトキシ酢酸 [OP(3)EC]	351 → 205
15	オクチルフェノール <u>モノ</u> エトキシ酢酸- d_4 [OP(2)EC- d_4]	311 → 205

「下水試験方法－2012年版－(下巻)」 正誤表(1刷)

頁	編	章	節	訂正箇所	誤	正
129	6	3	3	下から10行目	<i>V. monilata</i>	<i>Pseudovorticella monilata</i> (旧名 <i>Vorticella monilata</i>)
133	6	3	3	下から5行目	6. <i>Vorticella monilata</i>	6. <i>Pseudovorticella monilata</i> (旧名 <i>Vorticella monilata</i>)
135	6	3	3	7. <i>Vaginicola</i> (写真差替え)		
139	6	3	3	7行目	<u><i>A. costata</i></u> , <i>A. lynceus</i> , <u><i>A. sulcata</i></u>	<u><i>A. cicada</i></u> (旧名 <i>A. costata</i>), <i>A. lynceus</i> , <u><i>A. cicada</i></u> (旧名 <i>A. sulcata</i>)
140	6	3	3	下から2行目	7. <i>Aspidisca costata</i>	7. <i>Aspidisca cicada</i> (旧名 <i>Aspidisca costata</i>)
141	6	3	3	下から3行目	9. <i>Aspidisca sulcata</i>	9. <i>Aspidisca cicada</i> (旧名 <i>Aspidisca sulcata</i>)
148	6	3	3	2. <i>Philodina</i> (写真差替え)		
203	6	3	3	図3-70 (3行目)	<i>Aspidisca costata</i>	<i>Aspidisca cicada</i> (旧名 <i>Aspidisca costata</i>)

「下水試験方法－2012年版－(下巻)」 正誤表(1刷)

頁	編	章	節	訂正箇所	誤	正						
203	6	3	3	表3-6	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td style="text-align: center;">区 分</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">非 活 性 汚 泥 性 生 物</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">中 間 汚 泥 性 生 物</td></tr> </table>	区 分	非 活 性 汚 泥 性 生 物	中 間 汚 泥 性 生 物	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td style="text-align: center;">区 分</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">非 活 性 汚 泥 生 物</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">中 間 活 性 汚 泥 生 物</td></tr> </table>	区 分	非 活 性 汚 泥 生 物	中 間 活 性 汚 泥 生 物
区 分												
非 活 性 汚 泥 性 生 物												
中 間 汚 泥 性 生 物												
区 分												
非 活 性 汚 泥 生 物												
中 間 活 性 汚 泥 生 物												
205	6	3	3	表3-7 (2) (表の3行目)	<i>Aspidisca costata</i>	<i>Aspidisca cicada</i> (旧名 <i>Aspidisca costata</i>)						
205	6	3	3	表3-7 (2) (表の12行目)	<i>Aspidisca sulcata</i>	<i>Aspidisca cicada</i> (旧名 <i>Aspidisca sulcata</i>)						
205	6	3	3	表3-7 (2) (表の13行目)	<i>Vorticella monilata</i>	<i>Pseudovorticella monilata</i> (旧名 <i>Vorticella monilata</i>)						
209	6	3	3	表3-8 (表の1行目)	<i>Aspidisca costata</i>	<i>Aspidisca cicada</i> (旧名 <i>Aspidisca costata</i>)						
210	6	3	3	3行目	<i>Aspidisca costata</i>	<i>Aspidisca cicada</i> (旧名 <i>Aspidisca costata</i>)						
211	6	3	3	表3-9 (表の13行目)	<i>Aspidisca costata</i>	<i>Aspidisca cicada</i> (旧名 <i>Aspidisca costata</i>)						
214	6	3	3	表3-13 (表の2行目)	<i>Aspidisca costata</i>	<i>Aspidisca cicada</i> (旧名 <i>Aspidisca costata</i>)						
220	6	3	6	図3-74 (右上箱内)	対象	対照						
289	6	4	6	12行目	4) ウイルスRNAの逆転写反応	③ ウイルスRNAの逆転写反応						
290	6	4	6	5行目	5) リアルタイムPCRによるcDNAの定量	④ リアルタイムPCRによるcDNAの定量						
291	6	4	6	下から3行目	4) ウイルスRNAの逆転写反応	③ ウイルスRNAの逆転写反応						
318	6	5	3	3行目	それに対し、近年アナモックス法が開発され、	それに対し、近年アナモックス法 ¹⁾ が開発され、						
318	6	5	3	9行目	技術評価がなされており、今後徐々に	技術評価がなされており ²⁾ 、今後徐々に						
318	6	5	3	18行目	培 地	培 地 ³⁾						
319	6	5	3	表5-2タイトル	表5-2 FISH法で用いられるプローブ	表5-2 FISH法で用いられるプローブ ⁴⁾						

「下水試験方法－2012年版－(下巻)」 正誤表(1刷)

頁	編	章	節	訂正箇所	誤	正																				
323	6	5	4	下から3～4行目	<i>Candidatus</i> ‘ <i>Accumulibacter phosphatis</i> ’の挙動を追跡するためのプライマーセット、 <i>Actinobacteria</i> 門のポリリン酸蓄積細菌群を定量するためのプライマーセットが既に開発されている ⁷⁾ 。	<i>Candidatus</i> ‘ <i>Accumulibacter phosphatis</i> ’の挙動を追跡するためのプライマーセット ⁷⁾ 、 <i>Actinobacteria</i> 門のポリリン酸蓄積細菌群を定量するためのプライマーセット ¹²⁾ が既に開発されている。																				
324	6	5	4	表5-3 (参考文献 番号が抜け)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ポリリン酸蓄積細菌 (群)</th> <th>プローブ名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><i>Candidatus</i> <i>Accumulibacter phosphatis</i></td> <td>PAOmix</td> </tr> <tr> <td><i>Actinobacteria</i> 門の一群のポリリン酸蓄積細菌</td> <td>Actino1011</td> </tr> <tr> <td><i>Microlunatus phosphovorius</i></td> <td>Mp2</td> </tr> <tr> <td><i>Tetrasphaera japonica/australiensis</i></td> <td>TET63</td> </tr> </tbody> </table>	ポリリン酸蓄積細菌 (群)	プローブ名	<i>Candidatus</i> <i>Accumulibacter phosphatis</i>	PAOmix	<i>Actinobacteria</i> 門の一群のポリリン酸蓄積細菌	Actino1011	<i>Microlunatus phosphovorius</i>	Mp2	<i>Tetrasphaera japonica/australiensis</i>	TET63	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ポリリン酸蓄積細菌 (群)</th> <th>プローブ名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><i>Candidatus</i> <i>Accumulibacter phosphatis</i></td> <td>PAOmix⁷⁾</td> </tr> <tr> <td><i>Actinobacteria</i> 門の一群のポリリン酸蓄積細菌</td> <td>Actino1011¹²⁾</td> </tr> <tr> <td><i>Microlunatus phosphovorius</i></td> <td>Mp2¹³⁾</td> </tr> <tr> <td><i>Tetrasphaera japonica/australiensis</i></td> <td>TET63¹⁴⁾</td> </tr> </tbody> </table>	ポリリン酸蓄積細菌 (群)	プローブ名	<i>Candidatus</i> <i>Accumulibacter phosphatis</i>	PAOmix ⁷⁾	<i>Actinobacteria</i> 門の一群のポリリン酸蓄積細菌	Actino1011 ¹²⁾	<i>Microlunatus phosphovorius</i>	Mp2 ¹³⁾	<i>Tetrasphaera japonica/australiensis</i>	TET63 ¹⁴⁾
ポリリン酸蓄積細菌 (群)	プローブ名																									
<i>Candidatus</i> <i>Accumulibacter phosphatis</i>	PAOmix																									
<i>Actinobacteria</i> 門の一群のポリリン酸蓄積細菌	Actino1011																									
<i>Microlunatus phosphovorius</i>	Mp2																									
<i>Tetrasphaera japonica/australiensis</i>	TET63																									
ポリリン酸蓄積細菌 (群)	プローブ名																									
<i>Candidatus</i> <i>Accumulibacter phosphatis</i>	PAOmix ⁷⁾																									
<i>Actinobacteria</i> 門の一群のポリリン酸蓄積細菌	Actino1011 ¹²⁾																									
<i>Microlunatus phosphovorius</i>	Mp2 ¹³⁾																									
<i>Tetrasphaera japonica/australiensis</i>	TET63 ¹⁴⁾																									
421	6	参考文献		下から12行目と13行目の間	(第5章に追加)	<p>12) Liu, W.-T., Nielsen, A.T., Wu, J-H., Tsai, C-S., Matsuo, Y., and Molin, S. : In situ identification of polyphosphate- and polyhydroxyalkanoate-accumulating traits for microbial populations in a biological phosphorus removal process, <i>Environmental Microbiology</i> Vol.3, pp.110-122 (2001)</p> <p>13) Kawaharasaki, M., Kanagawa, T., Tanaka, H., and Nakamura, K. : Development and application of 16S rRNA-targeted oligonucleotide probe for detection of the phosphate-accumulating bacterium <i>microlunatus phosphovorius</i> in an enhanced biological phosphorus removal process, <i>Water Science and Technology</i> Vol.37, pp.481-484 (1998)</p> <p>14) Kong, Y., Michael Beer, Gavin N. Rees, and Robert J. Seviour : Functional analysis of microbial communities in aerobic-anaerobic sequencing batch reactors fed with different phosphorus/carbon (P/C) ratios, <i>Microbiology</i> Vol.148, pp.2299-2307 (2002)</p>																				